

令和6年度実施 朝霞市男女平等に関する市民意識調査結果報告書《概要版》

調査の目的

この調査は、「第3次朝霞市男女平等推進行動計画」(令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの計画)の策定や、今後の取組に向けた重要な基礎資料とするために実施したものです。

調査の概要

■調査対象:2,000 人(住民基本台帳から 18 歳以上の朝霞市民を無作為抽出)

■調査方法:郵送による配布、郵送による回収及び Web による回答

■調査期間:令和6年8月23日(金)～9月20日(金)

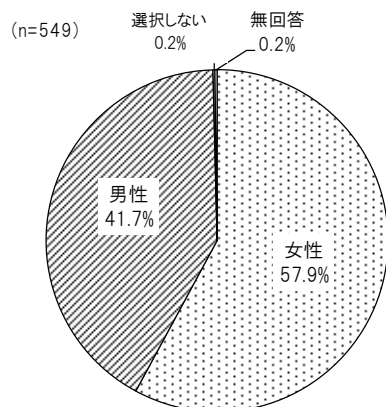
■回 収 数:550 票[有効票 549 票・白票1票](有効回答率:27.5%)

- ・図表中の(n=*)は集計母数を表しています。
- ・回答の比率(%)は、各設問の回答者数を母数として算出しているため、複数回答の設問については、選択肢ごとの比率を合計すると 100%を超えることがあります。
- ・同様の傾向の回答をまとめて割合を出す時、【 】で表現する場合があります。
- ・性別のうち「選択しない」の回答者は 1 名と僅少だったため、性別クロス集計の分析対象としないこととします。

回答者の属性

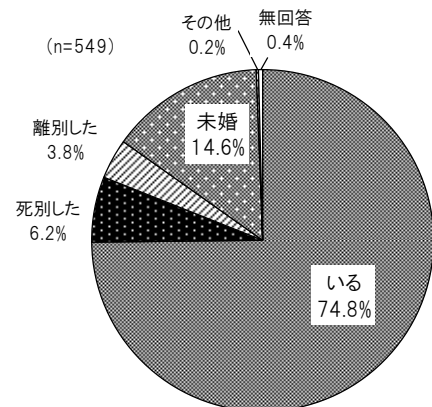
性 別

◆「女性」が 57.9%で過半数を占めています。



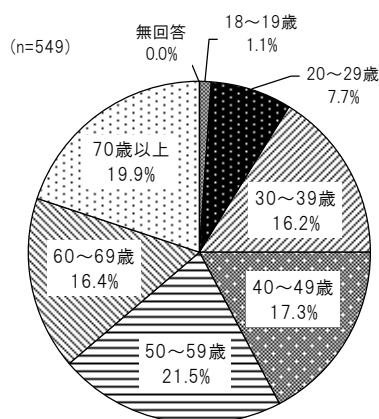
配偶者・パートナー(事実婚含む)の有無

◆「いる」が 74.8%で最も高く、「未婚」と「離別した」「死別した」を合わせると 24.6%となっています。



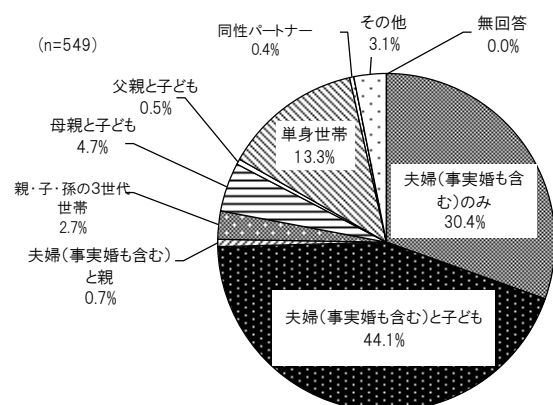
年 齢

◆30 歳以上がそれぞれ 16%台～21%台と同程度で、20 代以下は 10%未満となっています。



世帯構成

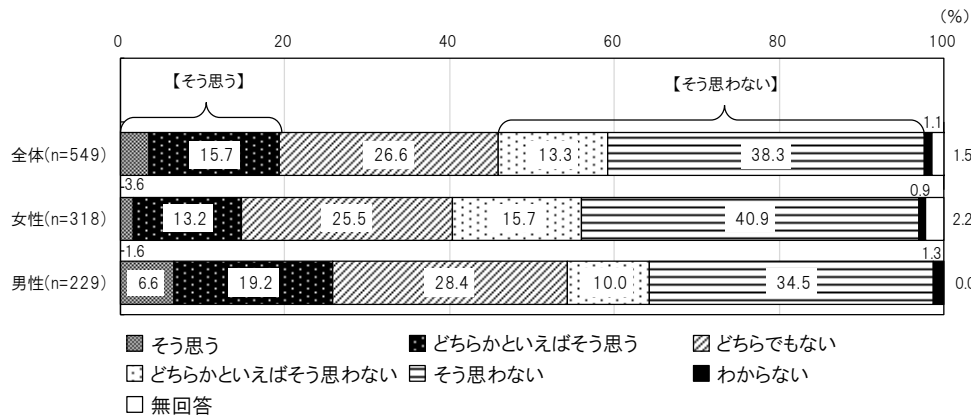
◆「夫婦(事実婚も含む)と子ども」が 44.1%で最も高く、次いで「夫婦(事実婚も含む)のみ」が 30.4%となっています。



家庭等での男女のあり方について

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

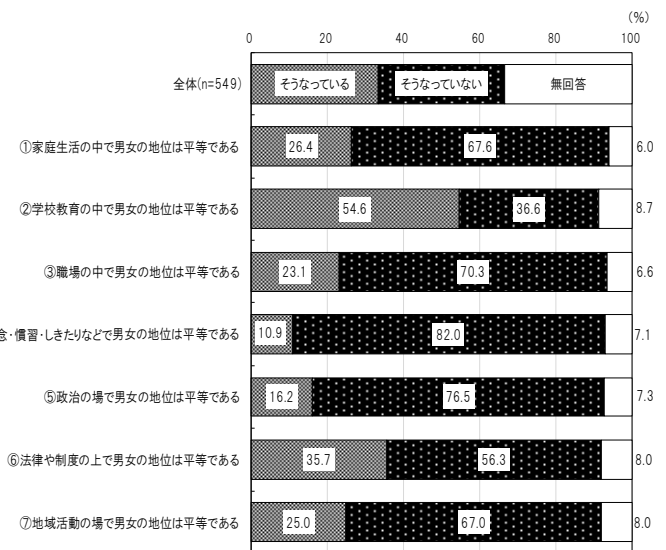
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計である【そう思う】は19.3%、一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計である【そう思わない】は51.6%で、【そう思わない】が【そう思う】を32.3ポイント上回っています。また、「どちらでもない」は26.6%となっています。



男女共同参画社会について

男女共同参画社会のイメージ(現在の社会全般、全体)

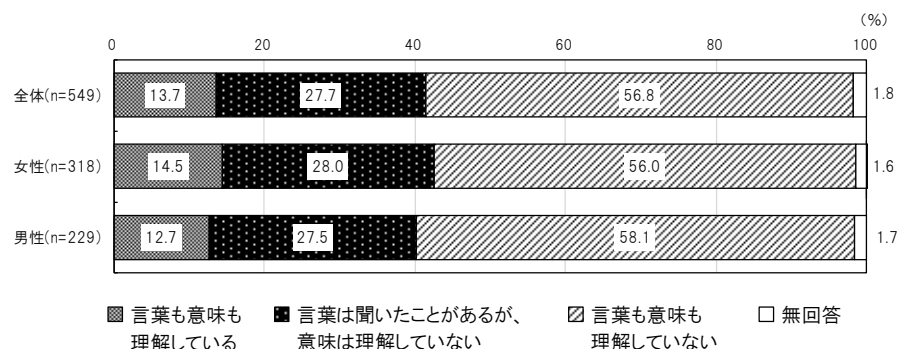
現在の社会全般の男女共同参画社会のイメージについて、「そうになっている」が最も高かったのは「②学校教育の中で男女の地位は平等である」(54.6%)、次いで「⑥法律や制度の上で男女の地位は平等である」(35.7%)、「①家庭生活の中で男女の地位は平等である」(26.4%)となっています。一方、「そうっていない」が高い順にみると、「④社会通念・慣習・しきたりなどで男女の地位は平等である」(82.0%)、「⑤政治の場で男女の地位は平等である」(76.5%)、「③職場の中で男女の地位は平等である」(70.3%)となっています。



性の多様性に対する理解について

SOGIE(性的指向および性自認・性表現)という言葉の理解度

「言葉も意味も理解していない」と回答する割合が最も高く56.8%であり、「言葉も意味も理解している」と回答する割合は13.7%と低い割合です。性別で見ると、男女で大きな違いはありませんが、男性よりも女性の方が「言葉も意味も理解している」と回答する割合が高くなっています。

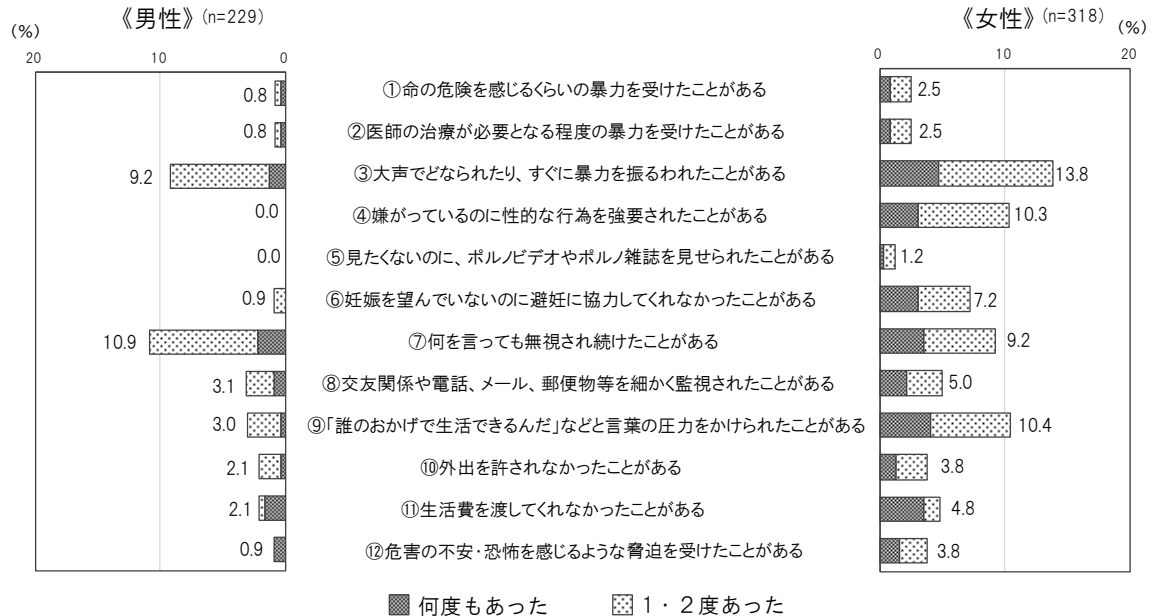


配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について

配偶者等から暴力を受けた経験

ほとんどの項目において女性は男性と比べて暴力を受けた経験が多い傾向がみられます。特に、「④嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがある」は女性が 10.3%で男性(0%)を 10.3 ポイント、「⑨『誰のおかげで生活できるんだ』などと言葉の圧力をかけられたことがある」は女性が 10.4%で男性(3.0%)を 7.4 ポイント上回っています。

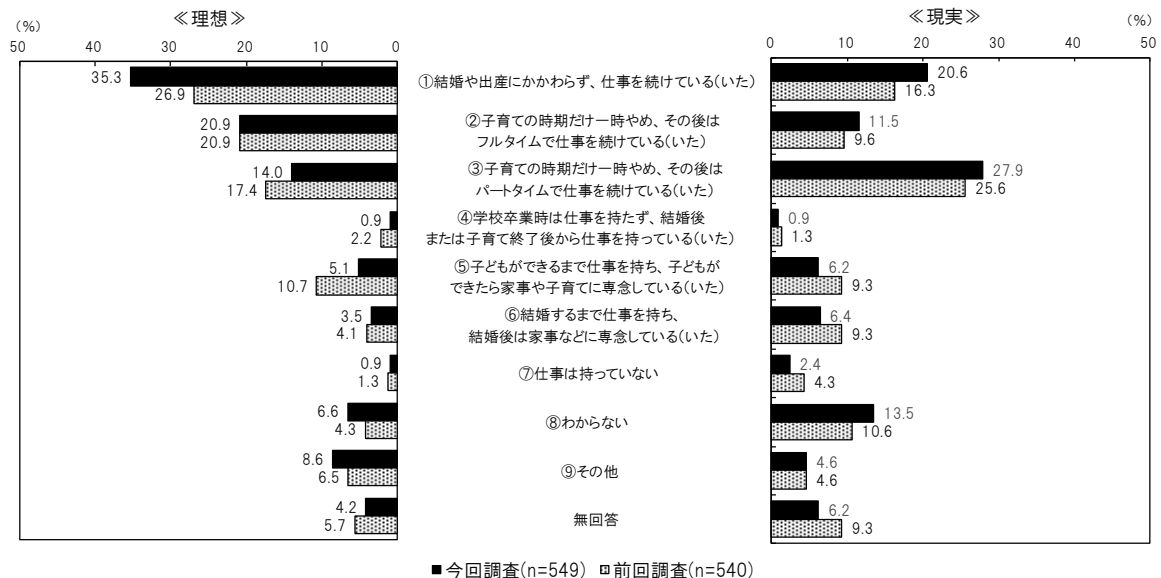
一方、「⑦何を言っても無視され続けたことがある」は、男性の被害が女性の被害を上回っている唯一の項目です。女性が 9.2%であるのに対して男性は 10.9%で、男性の方が 1.7 ポイント上回っています。



就業状況について

女性の働き方(理想と現実)

理想の女性の働き方について、「①結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」(35.3%)が最も高く、次いで「②子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(20.9%)、「③子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(14.0%)が上位となっています。現実の女性の働き方について、「③子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(いた)」(27.9%)が最も高く、次いで「①結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」(20.6%)、「②子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(いた)」(11.5%)の順になっています。

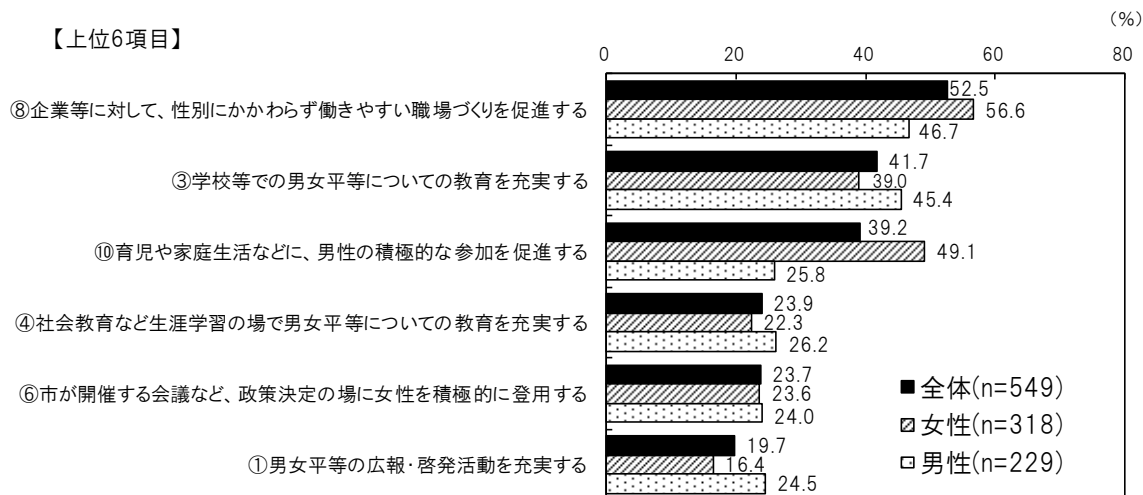


市の男女平等施策について

男女平等社会の確立をめざして、市が力を入れるべきこと

市が力を入れるべきことについて、「⑧企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」(52.5%)が最も高く、次いで「③学校等での男女平等についての教育を充実する」(41.7%)、「⑩育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」(39.2%)が上位となっています。性別でみると、「⑩育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」の項目は男女の傾向が大きく異なり、女性は49.1%であるのに対して、男性はそれよりも23.3ポイント低い25.8%となっています。

【上位6項目】

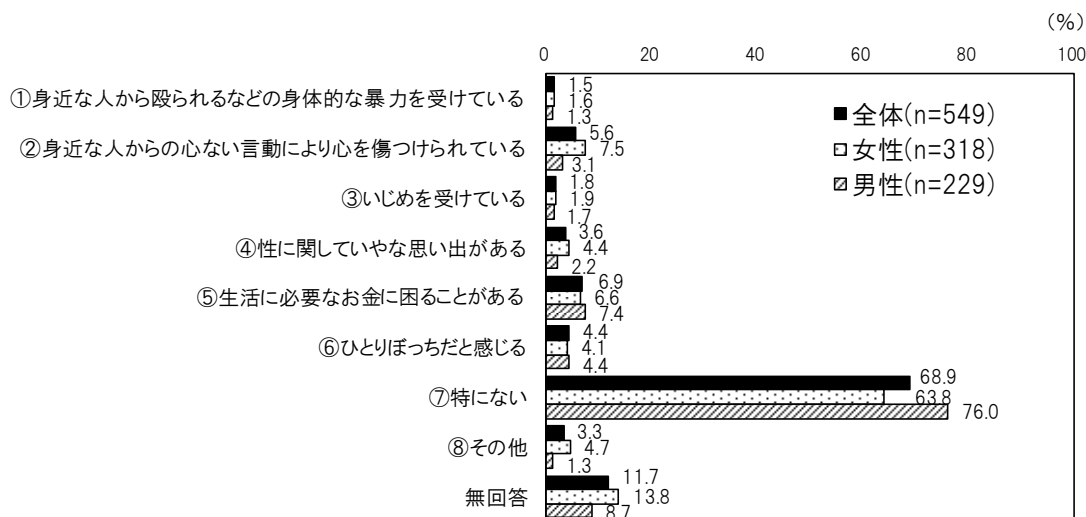


※各項目の番号はアンケート調査の設問における選択肢の番号

困難な問題への支援について

困っていること、悩んでいること

困っていること、悩んでいることについて、「⑦特にない」と回答する割合が68.9%と圧倒的に高いですが、「⑤生活に必要なお金に困ることがある」(6.9%)や「②身近な人からの心ない言動により心を傷つけられている」(5.6%)といった悩みも少なからず存在します。



令和6年度実施 朝霞市男女平等に関する市民意識調査結果報告書《概要版》

令和7年7月

発行 朝霞市女性センター(それいゆぷらざ)

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台1-7-1

TEL 048-463-2697 FAX 048-463-0524